

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 3 年目)

1. 研究課題

近代天皇制と社会

The Modern Emperor System and Japanese Society

2. 研究代表者氏名

高木博志

Hiroshi TAKAGI

3. 研究期間

2013 年 04 月 - 2016 年 03 月 (3 年度目)

4. 研究目的

昨今、歴史研究において、天皇制を国家や社会とのかかわりで考えることが少なくなり、「天皇」個人や「天皇像」といった研究に流れがちである。そのようななかで、単なる政治過程ではない、「近代天皇制と社会」を対象とすることにより、日本の近現代を考えてみたい。ひとつには明治維新からアジア・太平洋戦争 にいたる過程を、「近代天皇制と社会」から考えることで近代日本の特殊性や普遍性を再考する。近世後期から近現代までを見通して、町や村といった地域や、文化・宗教・思想・教育・社会運動・民俗などを視野に入れた広い意味での「社会」と天皇制との関係を考えてゆく。研究会では、もちろん「政治」の重要性を否定するものではない。政治史・教育史・文化史・思想史・運動史・美術史・植民地研究・民俗学・地域史などの諸分野の研究者とともに考えてゆきたい。

Recently, there has been a decline in historical research that considers the emperor system in relation to the state and society in Japan. Instead, recent work has focused on the emperor as a figurehead or on Japanese emperors as individuals. In our research, rather than thinking in terms of simple political processes, we aim to examine modern Japan itself by making the modern emperor system and Japanese society an object of study. For example, approaching the progression from the Meiji Restoration to the Asian Pacific War through the framework of Japanese society and the modern emperor system allows us to rethink what is unique and what is universal about modern Japan. Focusing on the transition from the early modern to the modern period, we explore the emperor system in relation to society, broadly defined to include local areas such as towns and villages, and diverse elements such as culture, religion, thought, education, social

movements and folk customs. Of course, we do not deny the importance of politics within our research group, which includes researchers specializing in diverse fields of historical study such as political history, educational history, cultural history, intellectual history, social movement history, art history, colonial history, folklore studies and regional history.

5. 本年度の研究実施状況

「天皇」個人や「天皇像」、あるいは単なる政治過程でなく、天皇制を国家や社会とのかかわりで考える問題意識をもって、研究会を積み重ねた。10回の研究会では、天皇制をめぐって、陵墓・由緒寺院・タイの王権・美術など多様な問題を扱うとともに、地域社会論や大学設立問題なども議論された。5月16日には大山古墳周辺と堺市における巡見ののち、近代の文化財保護や百舌鳥古墳群をめぐる研究会をおこなった。さらに9月18～19日には、伊勢神宮や朝熊山・二見浦への巡見をおこなうとともに、古市の朝吉旅館で伊勢神宮をめぐる研究会を、地元の研究者の参加をえておこなった。12月19日には、国際シンポ「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位罫」をもち、東学農民軍に対するジェノサイドの実態、東学農民戦争研究の到達点などが議論された。このシンポジウムを元に、『人文学報』の特集号をくむ予定である。また次年度以降、共同研究報告書『近代天皇制と社会』の刊行にむけて動き始めた。

7. 本年度の研究実施内容

- 2015-04-04
 - 靖國神社への戦没者の合祀基準の変遷 発表者 赤澤史朗 立命館大学
 - 広沢池畔、佐野藤右衛門桜園の巡見 発表者
- 2015-05-16 大山古墳の巡見と近代陵墓問題の研究会
 - 堺灯台と大浜公園（幕末の堺南台場の跡、石垣、『擁護璽』など）、そして大山古墳とその陪塚群の巡見（案内、尾谷雅彦） 発表者
 - 取り消された陵墓 黒姫山古墳 発表者 尾谷雅彦 河内長野市
 - 百舌鳥古墳群に即して尾谷雅彦『近代古墳保存行政の研究』にコメント 発表者 高木博志 河内長野市
- 2015-06-13
 - 近代神道の展開—丸尾博通・二荒芳徳を中心に 発表者 昆野伸幸 神戸大学
 - 空襲研究から考える—防空・空襲・空爆のあいだ（序論） 発表者 長志珠絵 神戸大学
- 2015-07-25
 - 神国大博覧会開催計画とその行方-昭和初期石倉市政の松江観光都市化戦略 発表者 能川泰治 金沢大学

- 1920～40年代における美術の社会普及 発表者 太田智己 東京芸術大学
- 2015-09-18 伊勢神宮・朝熊山・二見浦の巡見と伊勢神宮をめぐる研究会
 - 伊勢外宮・倉田山・内宮・おかげ横丁・古市旧遊廓・麻吉旅館の巡見（案内 ジョン・グリーン） 発表者
 - ジョン・グリーン『神都物語: 伊勢神宮の近現代史』（吉川弘文館、2015年）をめぐる研究会 発表者 音羽悟・櫻井治男・田浦雅徳・谷口裕信ほか 神宮司庁・皇學館大学ほか
- 2015-09-19
 - 内宮早朝参拝・朝熊山・二見浦・賓日館・御塩殿などの巡見（案内 音羽悟） 発表者
- 2015-10-31
 - 『朝鮮新報』主筆青山好恵と1890年代の朝鮮情報流通 発表者 中川未來 愛媛大学
 - 敗戦後の三笠宮—いわゆる「史学会発言」をめぐる— 発表者 河西秀哉 神戸女学院大学
- 2015-11-28
 - 大正・昭和戦前期の地域社会の変容—滋賀県湖東地方を対象に 発表者 高久嶺之介 京都橘大学
 - 「大学」をつくる—「帝国大学」創設期の同志社「大学」設立運動 発表者 田中智子 同志社大学
- 2015-12-19 国際シンポジウム「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位罝」
 - 東学農民戦争の研究状況と課題—東学農民戦争 120周年を過ぎて 発表者 朴孟洙（パクメンス） 圓光大学校
 - 日清戦争と明治維新の東アジア史的位罝を検討するために—朝鮮抗日農民戦争の現地調査から 発表者 井上勝生 北海道大学
 - 発表者 原田敬一 佛教大学
- 2016-01-23
 - 近世後期における水戸藩の儒教儀礼—『喪祭儀略』と『喪祭式』を中心に 発表者 田世民 淡江大学
- 2016-01-30
 - 神武・南朝・維新の三大顕彰と近代日本 発表者 高木博志 京都大学
 - 資料報告 京郊日蓮宗僧侶の神武・南朝・維新顕彰活動—高山彦九郎銅像・八紘一字石塔の建立と映画製作— 発表者 玉城玲子 向日市文化資料館
- 2016-03-19
 - 櫃原神宮と畝傍櫃原教会 発表者 幡鎌一弘 天理大学
 - 皇居の防空 発表者 長志珠絵 神戸大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

◆共同研究会参加者の共同研究に関連した著作、編著

- ①高木博志・谷川穰編『講座明治維新 明治維新と宗教・文化』（有志舎、2016年3月）
高木博志「総論」、高階絵里加「歴史画の成立」、ジョン・ブリー「近代の宮中儀礼」、
田中智子「公教育とキリスト教界」、谷川穰「維新期の東西本願寺をめぐって」を所収
- ②小林丈広・高木博志・三枝暁子共著『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年1月）
- ③ジョン・ブリー『神都物語—伊勢神宮の近現代史』（吉川弘文館、2015年6月）
- ④平山昇『初詣の社会史—鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』（東京大学出版会、2015年12月）
- ⑤河西秀哉『皇居の近現代史』（吉川弘文館、2015年11月）
- ⑥赤澤史朗『戦没者合祀と靖国神社』（吉川弘文館、2015年7月）
- ⑦駒込武『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』（岩波書店、2015年10月）

◆国際シンポジウム

- ・「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位罫」2015年12月19日、於京都大学人文科学研究所、参加者80名
- ・朴孟洙（圓光大学校）「東学農民戦争の研究状況と課題—東学農民戦争120周年を過ごして」
- ・井上勝生（北海道大学）「日清戦争と明治維新の東アジア史的位罫を検討するために—朝鮮抗日農民戦争の現地調査から」

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	6 (1)				33 (5)			
学内(法人内)	1	4 (1)			1	16 (2)			10
国立大学	5	6				25			
公立大学	2	2				8			
私立大学	16	17				70			
大学共同利用機関法人	1	1	1			8	8		
独立行政法人等公的研究機関	3	3				9			
民間機関									
外国機関									
その他		60 (5)				86 (5)	10		
計	29	99 (2)	1		1	255 (12)	18		10

※ () 内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	38 (35)
国際学術誌に掲載された論文数	3 (3)

※ () 内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	明治維新学会の高木博志・谷川穰編『講座明治維新 明治維新と宗教・文化』（有志舎、2016年3月）に、本研究班のメンバーから、高木博志「総論」、高階絵里加「歴史画の成立」、ジョン・グリーン「近代の宮中儀礼」、田中智子「公教育とキリスト教界」、谷川穰「維新期の東西本願寺をめぐって」を寄稿し、この分野の研究をリードした。
総論文数	0(0)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※ () 内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由	人文社会系の学会誌や共同研究書に掲載された論文である。		
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
松沢裕作編『近代日本のヒストリオグラフィー』山川出版社	1	1920年、茨木キリシタン遺物の発見	高木博志
横田冬彦編『読書と読者』	1	地域イメージの定着と日用教養書	鍛冶宏介
『民族藝術』32号	1	近代着物研究発展の可能性—メトロポリタン美術館の可能性	山本真紗子
松沢裕作『近代日本のヒストリオグラフィー』山川出版社	1	1890年代のアカデミズム史学—自立化への模索	廣木尚
『史林』第67巻第7号	1	品川弥二郎と御料地—長野県下の御料林をめぐる諸問題を中心に	池田さなえ
『芸林』第64巻第1号	1	平泉博士の日本思想史研究	昆野伸幸
『現代思想』43巻15号	1	鶴見俊輔と転向論	福家崇洋
『日本史研究』635号	1	地方文書の日常的な収集・保存体制の構築に向けて—京都の歴史資料保存活用 の現状と課題	小林丈広
『歴史評論』784号	1	戦後社会と象徴天皇制—明仁天皇・美智子皇后に焦点をあてて	河西秀哉
『歴史学研究』937号	1	戦争責任論と象徴天皇制	河西秀哉
『同志社談叢』36号	1	新島襄と京都府政の人々—大学設立募金運動をささえた人脈	高久嶺之介

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

13. 次年度の研究実施計画

2016年度は共同研究C班として共同研究「近代天皇制と社会」を継続する。のべ20人の報告者による10回の共同研究会を開催予定である。約20篇の論文を所収する、共同研究報告、高木博志編『近代天皇制と社会』（思文閣出版）の刊行に向けて、最終報告をおこなうとともに、編集に努力する。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果公表計画および今後の展開等 共同研究報告書、高木博志編『近代天皇制と社会』（思文閣出版）の刊行に向けて、2016年度に編集作業を開始する。また『人文学報』に平

成 25 年 12 月 19 日の国際シンポジウム「日清戦争と東学農民戦争—その東アジア史的位
置」の成果を特集号として公表する。